

ふじみサラダボール子育て情報

「成長と発達」

令和4年11月30日号

板橋富士見幼稚園



母子分離はいつの時期

子どもは、いつ親元から離れ自立へ向かうのでしょうか。

乳児期から幼児期に入り、次第に生活範囲が広がっていく頃に、母子分離が起こります。この「起こります」と言ったのは、実はこの時期に親から自立を意識することが多いからです。

生活の中で、子どもは親がしていることを真似したがる時期がやってきます。「じぶんでやる（自分でやる）」というような言葉が多く聞かれるようになると、親は自立させていく時期と判断し、「一人でできるかな」と子どもへの自立を促し始めます。生まれてから1歳半を過ぎる頃から、親の意識が少しずつ変わることによって、自立に向かう力を引き出していくのです。この母子分離は、子どもにとって早かれ遅かれやってくる大きな試練と言えるでしょう。そして、親と共に乗り越えていかなければならない、ある意味で、子を持つ親の試練でもあります。

うまく母子分離が出来るのかしらと思いつつ、子どもも「やって、やって」「出来ない」「いや、いや」を連発し、葛藤にさらされていきます。

スムーズに母子分離ができるお子様と、時間が必要なお子様がいます。これは当然、子どもの気質が大きく左右することだと思います。気質とは、元々生まれながらにして持っている能力のことで、ある意味では性格とも言います。その気質の違いで、3歳に達しても、親が傍に居ないと不安でしかたがない子どもと、親の手を振り切ってスタスタと大勢の中に入っていく子どももいます。

では、子どもが自立をしていく上で大切なことは何でしょうか。まず、子どもの欲求に対して素早く対応し、自己肯定感（自分が周囲の大人から愛されている感覚と満足感）を内在させることが重要です。そして、遊びや生活でしたいことを手助けしてあげてください。先回りして親がやってあげてしまうことは自立を妨げ依存を深めてしまうため禁物です。したいことや、してほしい事ができたときに、その都度素直に対応してあげることで、自立を早めていきます。親子の絆はしっかりと繋ぎつつ、お子様の気質を理解しながら焦らずゆっくりと進めてみてはいかがでしょうか。



【写真：大きく実った柿の収穫をしました】